会報　一の宮巡拝　第26−0041号　　令和5年12月25日

一の宮巡拝

一の宮巡拝会　発行人　塩原 輝昭
〒110-0005 東京都台東区上野3-4-8 第2協同ビル (株)アドワーク2内
電話：03-6284-3665　ファックス：03-6284-3669
http://ichinomiya-junpai.jp E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

輝かしい 甲辰歳を迎えて･･･神恩感謝

謹んで新年を言祝ぎたいと存じます。
４年間にわたり、苦しめられて来た「新型コロナ感染症」も令和５年の５月から「第五類」季節性のインフルエンザと同じ扱いに移行されました。私事で御座いますが、その直後にコロナに感染症に掛かり二日間は外出禁止・更に自宅療養との診断が下され、再びマスク生活を強いられ自己責任でのコロナ対処が今日迄続いています。皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

会の活動も、輝かしい新年を迎え初参りを「香取・鹿島」両神宮が候補に挙がっております。詳細は別紙にてお知らせする事となります。ご参加をお願い申し上げます。

甲きのえ（木性の陽）**辰**たつ（土性の陽）**三碧木星** さんぺきもくせい（火性の陽）**年**は**三象**（天地人）が**全て陽気**を持つ年となりますが･･･会員諸氏におかれましてはより良き年となります様にご祈念申し上げて居ります。

会員 大塩 奈成子様 謹書

令和六年（2024 年）甲辰 三碧木星年 歳徳神が坐す恵方は東方・甲方となります。この**歳徳神は一年中の方徳を司る神**と云われ、この神の方に向かって進路を求めれば万事が大吉とされると伝わる方角とも云われております。この方位を恵方（あきのかた）とも称され本年の最も強い得方（とくのかた）にあたるので、年始に神社・仏閣を参詣する場合の方位取りに良いと位置付けられてもいます。

先ずは氏神様と神棚様に御挨拶の後、崇敬神社へ初詣でに出掛けたいと存じますが･･良き新年ご参詣の参考にして頂ければと思います。

新型コロナ感染症に悩まされて来た、過去四年間はいろいろな事象が地球全体に、猛威を振るって私達に、自然の怖さと強大な猛威を知らしめて呉れた数年間でした。地球各地での山火事や気象異変は、人的な行為によって地球が悲鳴をあげてるのでは無いのかと知識人達が語っています。私達に何が出来るのでしょうか？･･･
昨年夏の異常な猛暑を体験した私達は、あの異常な日々を感得して耐えて来た思いの一部に･･･祷る事があったのではないでしょうか。日々の祈りの中でも、喘いでいる日本の自然が･･四季が･･無くなってしまうのかと思える時間でした。各地で遅れていた紅葉も、漸くにして目にする様も雪と共に訪れていました。

世界の各地では、戦争や侵略が続き令和六年も世界平和とは裏腹な越年を迎えねばならぬ国々が多々ある事に悲哀を感じ、御見舞いと無事を祷る事しか出来ない。私が日本人として、この日本国に生かされている有り難さに深く感謝する思いでいっぱいで御座います。

一の宮巡拝会代表世話人　塩原 輝昭

報告　令和五年度　一の宮巡拝会 初詣り「大祓」写詞ツアー

日本のまんなか・・総鎮守といえる上野国・渋川八幡宮から大祓詞を奏上し日本全国は元より世界へ向けて発信している社へ赴き大祓詞を写詞する企画が巡拝会として計画されたが、コロナ感染症により2年間中止を余儀なくされていた。
3年目の正直、コロナ感染症の攪拌が大夫おさまりつつ有る状況下、令和5年3月24日～25日を以って写詞ツアーが実施された。
*第一日目は東京駅丸の内北口集合9時出発～渋川八幡宮へ向かった。宮司 小野善一郎ご夫妻に迎えられ神社へ到着～先ずは昼食となった。時間短縮の為 食事も兼ねて12時半から小野宮司様～大祓詞の神髄を講演して頂きました。写詞に入る前に神殿にて修祓をして頂き清い心身にて写詞に入りました。
予定は約2時間で各人神妙にすばらしい写詞時間を体験させて頂きました。終了した大祓詞は、日時・氏名等を記し、本殿の三宝に献上され「写詞」終了奉告祭が行われ、玉串の奉奠を以って16時に終了した。16時30分頃、小野宮司様ご夫妻に見送られ渋川八幡宮を後に宿泊地の伊香保温泉へ向かった。立ち寄り予定の四の宮甲波宿禰神社の参拝を見合わせ、直接に森秋旅館へ向かった。　素晴らしい温泉と直会の酒宴が久方ぶりの懇親の会となった。

小野善一郎宮司様を中心に記念撮影

*第二日目は伊香保神社の自由参拝～榛名神社の参拝後・・坊所で各人好みの昼食を済ませて13時 帰京の途についた。
午後5時 東京駅丸の内北口着から解散した。　参加いただきました皆様有り難う御座いました。

令和五年度 全国一の宮会 総会　於 宇佐神宮　令和5年9月7日～8日

九州沖縄地区が担当し 宇佐神宮で総会を開催

全国一の宮会

全国の一宮で組織する「全国一の宮会」（会長＝新木直人義俊御祖神社宮司）は、四年ぶりとなる総会を大分県宇佐市の宇佐神宮（小野崇宮司）で九月七日に開催し、北海道から沖縄県までの会員神社の関係者ら約五十人が出席した。

新型コロナウイルス感染症の影響で四年ぶりの開催となった今回は、九州沖縄地区が担当。午後一時から同神宮で正式参拝をおこなったのち、参集殿を会場に開会式典が挙行された。神宮遥拝・神宮祓・国歌斉唱・物故会員への黙禱に続き、新木会長が挨拶・会員同士の再会を寿ぐとともに、この機会に会員がより一層結束し、巡拝運動を促進ましょう」と呼びかけた。

総会は新木会長を議長に選ばれ、令和四年度事業・決算報告ののち、令和五年度事業計画案・予算案等が承認された。また今年度は役員改選にあたり、事務の役員会で新木会長の留任が承認されたことから、総会では地区ごとより選ばれた理事から副会長を選出した。

記念講演会や関連の研修も

総会後には、宇佐神宮宝物殿文化財研究委員の乙咩政巳氏が「鬗の枕に演じ」と題する記念講演をおこなった。

乙咩氏は、同神宮の創祀とも関はり深い「三所池の真鬗」について、池の中の「御鬗」を乗せた神輿を奉じた歴史を詳述した。

その上で、同神宮の神秘祭（放生会）の端緒ともある特殊神事・鹿刈会を紹介した。

また年一回、東日本と西日本の地区が交互に担当して総会を開催しており、来年は北海道東北地区が担当する。

同神宮の関連史料も示しつつ、養老四年（七二〇）に大隅・日向の隼人ら鎮圧のため、朝廷が三角首生の裏鬗で奉製した枕状の八幡神の「御鬗」を乗せた神輿を奉じた歴史を詳述した。

同会は平成三年の発会以来、ガイドブックや特製年間帳の企画・製作を通じた会員神社への巡拝促進といった崇敬者向け事業等を展開してきた。

以来、来年は北海道東北地区が担当する。

同会は平成三年の発会以来、ガイドブックや特製年間帳の企画・製作を通じた会員神社への巡拝促進といった崇敬者向け事業等を展開してきた。

また年一回、東日本と西日本の地区が交互に担当して総会を開催しており、来年は北海道東北地区が担当する。

神社新報 令和5年10月23日 第3655号に掲載

コロナ感染症の影響で中止が続いていた全国一の宮会の総会が四年振りに豊前国・宇佐神宮で実施されました。
当巡拝会からは塩原と村上彰氏２名が参加させて頂きました。
コロナ感染症も五類になっていた事も有るのか、皆様四年ぶりの総会顔合わせという事で懇親会も二日目の研修会も和やかな時間だった様に感じ取れました。
新木会長はじめお元気な宮司様方と懇親をする事が出来、貴重な時間でした。

おごそかに大祓詞の写詞風景

小野善一郎先生の講演テーマ

正規寸法７折半の祝詞用紙に写詞された現物

一の宮巡拝会関西ブロック活動報告

令和５年９月19日～20日に滋賀県のパワースポット８社と１寺にお参りしてきました。
JR米原駅に10時半に集合して関口の車とタクシーで先ずは長浜港へ、遊覧船に乗って竹生島に到着。

① 竹生島へ到着後、急な階段を上って正式参拝へ

都久夫須麻神社（竹生島神社）で正式参拝の後、西国三十三カ札所の宝厳寺にもお参りしました。
パワースポットとして広く知られる竹生島には様々ないわれや願掛けが現在にも伝わっています。我々も竜神拝所で全員がかわらけ投げをしました。一枚のかわらけには自分の名前をもう一枚には願い事を書いて少し離れた岩場にある鳥居の中に上手く投げ込んだら願い事が成就する！と言われています。ところが上手く鳥居の中にまで届いたのは私だけでした。（笑）

その後、長浜八幡宮、多賀大社、太郎坊宮・阿賀神社、苗村神社、御上神社、甲賀市まで足を伸ばして田村神社、油日神社といつもの欲張りでハードな巡拝となりました。

② 長浜八幡宮にて記念撮影

今回、脚の調子が良くない！と言っていた静岡県三島市から参加の井上さんが山の頂上にある本殿までの険しい道を何なく歩き通したことは御利益を授かったのかな、とも思えるほど元気でした。また、最後にお参りした油日神社は夕刻間際でしたが、ご丁寧な対応をして頂きました。そして宮司様のお話では、現在ＮＨＫテレビで放映中の朝ドラ「ブギウギ」のロケ地になったそうです。ちょうど第１回目が10月２日から始まるので全員興味をそそられました。

③ 太郎坊宮の御本殿前にて、険しい階段を上ってきてホット一息

６回目の今回も大きなパワーを頂いて皆さん元気で気持ちよく、帰りは京都駅八条口で夕方６時に解散しました。尚、関西ブロックの会員の方で興味のある方は近畿ブロック世話人中谷英明または、関口行弘までご一報ください。

一の宮巡拝会 相談役
関口 行弘

④ 閑寂な油日神社、神体山の油日岳がある

地域研究 妙龍神社の全国一の宮碑について

一の宮巡拝会事務局　塩原 輝昭

『妙龍神社』・『全国一の宮碑』への過程

妙龍神社・全国一の宮碑の存在を知ったのは、平成25年春の事であった。知人が雪中和紙を求めて越後国「長岡の奥座敷」といわれてる蓬平温泉に和紙を買い求めに行った帰路、妙龍神社・全国一の宮碑の事に触れたパンフレットを持ち帰った事からである。

二十村郷の石仏と題する中の大田伝承の項目の一部で読む事が出来た。平成25年は訪問する機会が無く、瞬く間に一年が過ぎた平成 26 年 3 月、佐渡へ行った帰路、山肌には多くの雪が残る第 1 回目の妙龍神社参拝を実施し、本殿左右に建立されている一対の全国一の宮碑を確認して数枚の写真を撮って帰った。パンフレットにははっきりと読み取れる碑であると記していたが、実際はかなり剥奪している部分が多く一日も早く石碑の内容を残したいと思い、新潟県長岡市地域振興局に電話したところ、企画振興局の方から快く妙龍神社の事を語り継いでいる小高様を紹介して頂いた。双方の都合の良い時期・時間を併せ 6 月 2 日に案内していただく事となり、前日 6 月 1 日は佐渡・大野亀登拝と周辺のカンゾウを観賞し、夜は大膳神社の薪能を堪能した。翌、2 日朝一番のフェリーで新潟港に戻り長岡市の地域振興局を訪問してから妙龍神社へ向かった。神社山道入口で木枝を切る釜を持った小高友一様とお会いし、参道を登り神社と一の宮石碑の案内と神社伝承を語り聞かせて頂いた。その折り頂いた「妙龍大権現略縁起」と小高様からの資料を鑑み、『妙龍神社』・『一の宮碑』の由来を興味深い神示なので次項にまとめてみました。

『妙龍神社』・『全国一の宮碑』由来

濁沢村、貫（つなぎ）妙龍大権現の由来からすると、『妙龍神社』は今から221年前の寛政五年（1793 年）に建立された。以来濁沢の孫兵衛家で護持しているが、その先祖の小幡孫兵衛の子息に助左衛門と云う人がいた。

若い時、今の妙龍神社の対岸の「妙ヶ谷」で菅笠の材料の菅を刈りながら険しい崖を攀じ登ったが途中で進退窮（きわ）まってしまった。眼下は深い谷で落ちたら命は無い。信心深い助左衛門は必死で神仏に助けを願った。

すると目の前に太い藤蔓（づる）が垂れ下がってきた。それにすがって崖を降りた助左衛門は助かる事が出来た。

宝暦十二年（1762 年）助左衛門は東都（えど）に出て下谷稲荷町壱丁目で搗屋株（つきやかぶ）精米店を営み住居とした。『此者元来神仏に帰依し三宝を敬い礼儀を専（もっぱら）とし東都に有て本国の鎮守を怠り無く信じて其の恵みや次第に家繁盛す』、然るに去る寛政三年（1791 年）亥の年元日の夜、夢となく現となく枕元に二十尋ばかりの大蛇が立ち**「我は本国越後国古志郡濁沢の妙ヶ谷に棲む妙龍である。蛇躰ではままならぬので君能（よく）道の精神に叶う人なり願わくば我をして神に祭りたまえ我能（よく）諸人を災難から救い守ろう」**と告げた。不思議にもそれが三夜続き、さらに明くる年寛政四年の元日より続けて三夜、同じ夢を見た。思えば若い時に妙ヶ谷で自分を救った藤蔓も妙龍様の化身に違いないと悟った。決心を固めた助左衛門は寛政五年二月に帰郷し、村役始め村人の協力を得て妙ヶ谷と真向いの適地、丸山の尾根を平らげ四月八日吉日を以て妙龍神社を建立した。新社の神事には老若男女信仰者が多数集まった。『中昔より二王谷を妙ヶ谷と唱うるより右蛇躰を妙龍大権現とあがめ奉る』と略縁起に記されている。

其の後、享和元年（1801年）酉年正月元日の夜、再び助左衛門の夢に、当国一の宮、伊夜日子大明神が現れ曰く**「汝能く我を信ず、汝が建立せし妙龍大権現の境内に、我をはじめ大日本国中の一宮を移し祭るべし、普く諸人の幸を守らん」**と告げた。助左衛門は再び帰郷し、享和二年（1802 年）戌の年、神社の両脇に六十八州の一の宮の神銘を刻んだ一対の石碑を建立し祀った。妙龍神社の霊験は一層あらたかとなり近郊からの参詣人が絶えなかった。……と伝わる。

尚、先の中越大地震 2004 年（平成16年）で社殿左側の境内地が崩落したと聞く、一の宮碑も石塔上部が落下して打撃を受けた様子が窺がえる。神社建立後221年が経ち栄枯盛衰の時空を感じる、今は参拝者も少なくひっそりと妙龍様が鎮まって居られる。

享和二年の一の宮碑建立後、213年が過ぎた平成 26 年 11 月 3 日（2014 年）は、震災10年目の追悼の年、節目の年なので、何としても此の石碑の存在を知らせたいと思って訪れました。震災からの更なる復興を心より祈る思いで御座います。特に壊滅的だった山古志村の再起復興の素晴らしさに心うたれた一者で御座います。

（山古志闘牛 千秋楽の日訪問）

令和５年12月 改訂記

弁財天の石碑

参道（山道）入口傍らの「弁財天の石碑」誤刻彫りについて

大正の頃「先達」が勝手に「明龍大神」の刻字で信者に造らせた。
間違って出来上ったが立派に出来たものを今更直せないとの事でそのままにして両用している。
＊白龍大神は四郎丸の大地主の蔵に住む白蛇を配祀したものである。
＊石碑の下は手水所で、龍の口から水が出ており、貫（つなぎ）の弁天様と呼ばれている。
＊新たに建てた第２鳥居の扁額にははっきりと『妙龍神社』と彫られている。
＊登り口の赤い第一鳥居は「明龍神社」の額縁が掲げられた大鳥居となっている。

妙龍神社は･･･上記の事情から名称が各種伝えられています。

現在、ナビや地図の案内表示では白龍神社（はくりゅう）又は明龍神社（みょうりゅう）の名称で呼ばれている。

各面は上段・下段に分かれている

本殿向かって右手側　34社名（一～八）

上段三＊下段七
十社
上段二＊下段六　八社
上段四＊下段八　八社
八社
上段一＊下段五

上段 一
山城國　加茂大明神
大和國　三輪大明神
河内國　平岡大明神
和泉國　大鳥大明神

上段 二
伊勢國　伊賀國　摂津國
志摩國　敢國大明神　住吉大明神
射波國　都波岐大明神

上段 三
尾張國　真清田大明神
三河國　砥鹿大明神
遠江國　事麻知大明神
駿河國　浅間大明神
甲斐國　浅間大明神

上段 四
伊豆國　三嶋大明神
相模國　寒川大明神
武蔵國　氷川大明神
安房國　州崎大明神

下段 五
上總國　玉前大明神
下總國　香取大明神
常陸國　鹿嶋大明神
近江國　建部大明神

下段 六
美濃國　南宮大明神
飛騨國　水無大明神
信濃國　諏訪大明神
上野國　抜鉾大明神

下段 七
下野國　二荒山大明神
陸奥國　都々古別大明神
出羽國　大物忌大明神
若狭國　遠敷大明神
越前國　氣比大明神

下段 八
加賀國　白山姫大明神
能登國　氣多大明神
越中國　高瀬大明神
越後國　伊夜日子大明神

本殿右側石碑 上段 三番

※赤文字（ヨコケイ線入）は石碑面が剥欠落の為実際は読めない　※ピンク文字は辛うじて読み取る事が出来る
※青文字は土中埋もれている又は苔に覆われている部分

全州六十八ヶ國 妙龍神社の全国一の宮碑　享和元年（1801年）建立

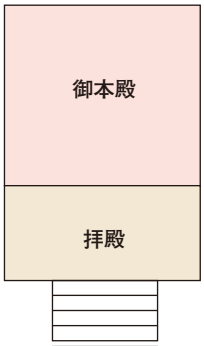
（西暦2023年で222年が経過）

本殿左側の石碑

左手側　九～十六

上段九＊下段十三
八社
上段十＊下段十四　八社
上段十二＊下段十六　八社
十社
上段十一＊下段十五

合計：34社名 彫刻



右手側　一～八

上段三＊下段七
十社
上段二＊下段六　八社
上段四＊下段八　八社
八社
上段一＊下段五

合計：34社名 彫刻

本殿右側の石碑

四番目の鳥居から本殿を見る

参道入口から山道を望む

本殿向かって左手側　34社名（九～十六）

上段九＊下段十三
八社
上段十＊下段十四　八社
上段十二＊下段十六　八社
十社
上段十一＊下段十五

上段 九
佐渡國　渡津大明神（度）
丹波國　出雲大明神
丹後國　籠守大明神
但馬國　岩石大明神（出）

上段 十
因幡國　宇部大明神
伯耆國　倭文大明神
出雲國　杵築大明神
石見國　物部大明神

上段 十一
隠岐國　由良姫大明神
播磨國　伊和大明神
美作國　中山大明神
備前國　吉備津大明神
備中國　吉備津大明神

上段 十二
備後國　吉備津大明神
安藝國　嚴嶋大明神
周防國　玉祖大明神
長門國　住吉荒魂大明神

下段 十三
紀伊國　日前大明神
淡路國　多賀大明神
河波國　大麻彦大明神（阿）
讃岐國　田村大明神

下段 十四
伊豫國　三嶋大明神
土佐國　箱崎大明神（都佐）
筑前國　都佐大明神（箱崎）
筑後國　高良玉垂大明神

本殿左側石碑 下段 十三番

下段 十五
豊前國　宇佐八幡大神
豊後國　杵原大明神（柞）
肥前國　河上大明神
肥後國　阿蘇大明神
日向國　都農大明神

下段 十六
大隅國　鹿児嶋大明神
薩摩國　和多都美大明神
壹岐國　天手長男大明神
対馬國　和多都美大明神

※赤文字（ヨコケイ線入）は石碑面が剥欠落の為実際は読めない　※ピンク文字は辛うじて読み取る事が出来る
※グリン文字は明らかに誤刻彫りしたと思われる箇所　グリン文字を（ ）内の紫文字に差し替えたら良いと思われる

一の宮巡拝会 会員各位

令和六年度 年会費 納入のお願い

一の宮巡拝会の年度は、ご入会された日ではありません。毎年1月が更新月となっておりますが、過去4年間は会の行事もコロナ感染症の為、思う様に実施する事ができませんでした。
本年度は、コロナ感染症も終息域5類に入ったので令和6年度は2月から新年初参りのツアーを実施したいと考えております。今後も引き続き会からの企画を会員皆様へお知らせして参りたいと準備を致しております。

令和六年度 年会費納入を宜しくお願い申し上げます。

尚、六年度の会員証は下記のとうり黄色のカードとなります。

〈会員証 見本〉

令和 6 年 1 月 1 日　　No. 0138

一の宮巡拝会 会員証

巡 拝 太 郎 殿

一の宮巡拝会本部事務局
〒110-0005 東京都台東区上野3−4−8 第2協同ビル
電話：03-6284-3665 FAX：03-6284-3669
http://ichinomiya-junpai.jp e-mail:junpai@alpst-net.co.jp

（81%縮小しています。また実際のカードの色とは若干異なります）

御協賛のお願い

年会費は会報発行のみではなく、会運営・事務・広告等の原費であります。4年間におよぶコロナ禍、何かと不行き届きをお掛け致してまいりましたがが…どうぞご海容の程ご容赦いただき、ご協力をお願いいたします。
巡拝会継続・発展のため ご賛助寄付金のご奉賛と御援助を賜りますよう、宜しくお願い申し上げる次第でございます。

神社新報 令和5年1/1日号 広告掲載

全国一の宮神社所在地図　B3判横両面刷り（四ッ折B5サイズ仕上）

▲全國一の宮巡拝のすすめ B5判 20頁

「全国一の宮巡拝のすすめ」+「全国一の宮神社所在地図」をご希望の方は、送付先を明記の上、送料分（1セット）400円（100円切手4枚希望）を同封し、必ず封書で本部事務局へお申し込み下さい。

「諸国一の宮巡り 掛軸」頒布のお知らせ

日本全国106社を巡拝する新しい旅の始まりです。『諸国一の宮巡り』の掛軸（仮巻き）が、新たに巡拝会から頒布する準備がようやく整いました。是非、御朱印帳と共に御軸も携え、悠久からの神氣と息吹を求めて一の宮を巡りましょう。きっと素晴らしい神々との出会いと共に日本各地の伝統文化・風土を再認識する旅となります。諸国一の宮の神々が導きのまにまに重積してゆく御神印を拝する時、自ずと頭を垂れ、手を合わせ、素直な心に甦る自分を、感じて下さい。
御軸は護持者の宝物となり御尊家の守護神様となります事を願っています。　**取扱は本部東京事務局**

上 代 40,000円（税・送料別）

「諸国一の宮巡拝成就の証」発行について

朱印帳巻末に完拝証明を致します

全国一の宮102社（108所）を巡る参拝の旅は、広大無辺な御神徳を頂ける祈りの旅でもあります。私たち巡拝者に多くの事象を大自然の法（のり）と共に、神と生きる道を教示してくれる。何巡目になろうと、常に新鮮な御魂になれる場所こそが、一の宮の聖地で在ろうと心得て惟神（かんながら）の歩みを続けて頂きたいと存じます。
今回、諸国一の宮を完拝された会員を祝福させて頂く証しのために『**諸国一の宮 巡拝成就**』の記念御守カード（下見本）を作製致しました。未会員の方はご相談下さい。

東京本部事務局で完拝の証明が出来た方のみ、御希望者には特別頒布をさせて頂きます。（但しお一人様 一組 3,000円、巡拝成就記念お守り携帯カード・完拝証状 完拝者名入 A5判）

☆お問い合わせは本部東京事務局まで。
Tel:03−6284−3665（月〜金）13:00〜17:00
（土・日・祝は休業です）
E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

これは表面です〈90% 縮小〉（うら面は108社の神社名入り）

諸国一の宮巡り 掛軸（仮巻き・新編版）

上　代 40,000円
消費税　4,000円
頒　布 44,000円

完拝者割引 10%　36,000円＋税（3,600）＝39,600円＋送料別
〈当会完拝証明者〉

継続会員割引 10%　36,000円＋税（3,600）＝39,600円＋送料別
〈令和六年度 会費納入者〉

◆掛軸は令和元年10月からの消費税率額で記載してあります。
◆送料について：送料は地域により若干の差額が生じる為、全てヤマト運輸からの着払いにさせて頂きます。

ご購入希望者は本部事務局まで ——ご注文の際は番号と品名を必ずご記入下さい。

墨書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。B5判（タテ257×ヨコ182mm）

※斐伊川和紙の表紙に関しては手漉きのため、予告なく色が変わる場合があります。

格式ある神社二十二社　准勅祭社 東京近郊十二社

❺斐伊川和紙（二十二社）定価一万二千円

❻石州紙・白楮和紙（二十二社）定価七千円

＊軽量で携帯に便利！
＊価格は全て税込です

❹石州紙・白楮和紙
本文白紙版
定価七千円（送料別）

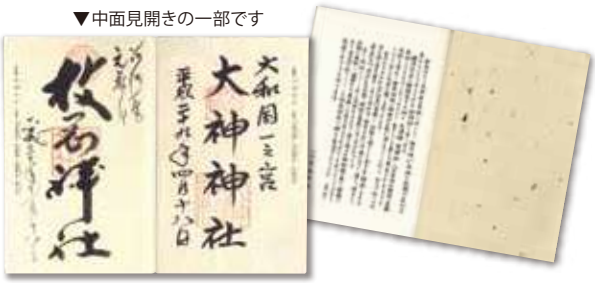
❸石州紙・白楮和紙
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価八千円（送料別）

❷斐伊川和紙（奥出雲・手漉き）
本文白紙版（表紙色仮）
定価一万四千円（送料別）

❶斐伊川和紙（奥出雲・手漉き）
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価一万七千円（送料別）

▼山頂本社に登拝して戴くご朱印

▼中面見開きの一部です



一の宮巡拝会 本部事務局 移転のお知らせ

このたび本部事務局を下記に移転しましたのでお知らせ致します。

新　住　所　〒110-0005
東京都台東区上野3−4−8 第2協同ビル（株）アドワーク2内
新電話番号　03−6284−3665
新FAX番号　03−6284−3669（FAX専用）
http://ichinomiya-junpai.jp
E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

※上記電話が繋がらない場合は ☎03-5823-3901 へお問い合せください。

■信念の神道家　橘 三喜

一の宮巡拝会刊 定価二、五〇〇円
会員価格 二、〇〇〇円（送料別）

「全国一の宮会」編　公式ガイドブック

◆全国一の宮めぐり《改訂版》

一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』事務局（大和国一の宮大神神社内）で平成二十年十二月に発刊された公式ガイドブック「全国一の宮めぐり」は必携本となっております。巡拝会発行の「全國一の宮巡拝のすすめ」と合せて活用して頂けたら幸いです。

◆旅する一の宮《改訂版》

一の宮めぐりをもっと気軽に旅するガイドブックとして新たに平成二十四年五月一日に発刊されました。一の宮神社案内と合わせ、各神社周辺の観光スポットを紹介した多彩な情報が満載です。尚、各公式ガイドブックは一の宮神社と一の宮巡拝会本部事務局で頒布しており、一般の書店では購入することは出来ません。全国一の宮神社の社頭でお求めください。

神社にない場合は、左記一の宮巡拝会本部事務局へお問合わせください。

頒布価格　各一、〇〇〇円（送料別）

一の宮巡拝会 本部事務局
〒一一〇−〇〇〇五
東京都台東区上野三−四−八 第2協同ビル5A
（株）アドワーク2内
電　話　〇三−六二八四−三六六五
FAX専用　〇三−六二八四−三六六九
◆問合せ電話 〇三−五八二三−三九〇一

●入会金及び会費について
一般維持会員　年会費　三〇〇〇円
寄付金　お志し　※常時受け賜ります。（薄謝謹呈）